

留学体験記 (ジャクソンビル大学/米国フロリダ州)

What I Experienced at Jacksonville University

会計研究科 2 年 諸山 えみ (留学期間: 2019 年 8 月-12 月)



ジャクソンビル大学(以下 JU)では、キャンパス内を中心に友人たちと過ごすことが多いです。ほとんど全ての学生がキャンパス内の寮やアパートに住むので、毎日を友人と過ごしていました。実際に、私も学内のアパートメントでルームシェアをする形で暮らしていました。共有スペースと個室(4 名)がしっかり分けられていて、ルームメイトと楽しく談笑をしつつ、自分ひとりの時間も確保できていた点がとても良かったです。平日は授業に出席し、空き時間にはジムや図書館やカフェテリアに行き、試験期間以外の週末には海やタウンセンター(日本でいうアウトレットモールのようなもの)に出かけました。

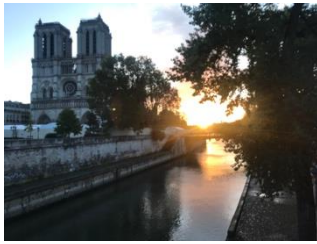
大学院生用の授業は、学期を 2 つに分けたクォーター制が採られています。会計研では馴染み深いですね！エネルギーな先生方による全 8 回(×3.5h)の授業で、毎回あっという間に時間が過ぎていくようでした。授業がボリュームでハイペースな分、1 回の授業で課される課題の量も多いですが、やりがいもその分大きいです。私が履修した 3 科目(9 単位分)の中で特に印象に残っている授業は、"Leading People & Organizations"です。会計学とは一線を画した経営学系の授業で、グループディスカッションや授業を通して、アメリカならではの視点でリーダーシップについて考えるきっかけとなりました。



また、サークル活動も留学生活には欠かせません。学部生、院生問わず自由に参加できる点もとても好印象でした。私は、ISA (International Student Association) と Outing Club に参加していました。特に ISA の友人たちと過ごすことが多かったです。アメリカ国外からの学生を中心に構成されており、国際色豊かな友人に囲まれて学ぶことがたくさんありました。Outing Club では、カヤックやキャンプ、ロッククライミングを楽しみました。私にとってこれらの活動は、共通の趣味を持つ友人たちとコミュニケーションを取る最高の機会でした。

4 ヶ月間の留学プログラムは、会計研に設置されている他のどのプログラムよりも期間が長いので、つい時間がたくさんあると油断してしまいそうになります。しかし、現地に実際に着いたのち、毎週の授業や課題、試験に向けた準備を重ねていくうちに、あっという間に時間が過ぎていくのを肌で感じるようになると思います。東京とは違い、車がないと自由に歩くことができない環境のなかで、それを精一杯生かして日々勉強に励んだり、友人と楽しく過ごしたりなど、1 日 1 日をどれほど充実したものにするかは、自分次第です。会計研自体初の JU への交換留学生ということもあり、手探りのまま進む手続きや新天地での生活に対して、不安に思うことも多々ありました。しかし、会計研の先生方や事務所の方々をはじめ、JU のコーディネータの方々、友人たちに支えていただいたおかげで充実した日々を過ごすことができました。本当にありがとうございました。今これを手に取っているみなさんも、会計研で過ごす最後のセメスターをより素晴らしいものにするための選択肢のひとつとして、JU への留学をぜひ考えてみてください。





1. ESSEC での生活について

授業は、Business Economics, Entrepreneurship, International Finance, Financial Markets, Nobel Ideas in Economics の5つを履修しました。ESSEC の Master in Finance プログラムは非常に人気があり、金融について興味を持っていたので、必ず履修したいと思っていました。また ESSEC の Master Program のうち、GE (Master in Management) と MSF (Master in Finance) は Financial Times によればグローバルランキングでも上位に入っています。

ESSEC では1回の授業は3時間で、1講座につき1学期合計10回分の授業があります。授業1回分の内容も非常に多いです。そして授業中で、常に学生による発言があり、先生もその場で質問に答え、その上で議論した話をさらに発展させ、学生に教えていました。ハイスピードな授業に付いて行くには、予習と復習は不可欠でした。校内に、食堂(主に昼ご飯だけを提供し、メニューは毎週変わる)、図書館兼自習室 (Learning Center)、ジムが完備されています。その上、金融研究室 (Finance Lab) は Bloomberg のデータベースを備えてあります。学生がこれを利用し、世界中の株式市場や外国為替市場のリアルタイムのデータを用いて、金融についての研究とプロフェッショナル取引のシミュレーション(ポートフォリオ構築)を行うことができます。授業以外にも、ESSEC の交換留学担当者は歓迎会、集合会、送別会などを開催してくれました。留学生は学生生活に関して質問があれば、いつでも担当者に相談することができます。また、ESSEC の学生を対象にした留学説明会では、早稲田代表の一人として早稲田を紹介する経験もさせていただきました。留学先として日本はとても人気でした。

2. パリでの生活について

パリの市内に住んでいました。近くにノートルダムとパンテオンがあります。Cergy にある ESSEC までは、およそ1時間かかりますので、朝1限(9時)の授業に合わせ、Saint-Michel 駅から7時半の電車に乗ります。その時間はちょうどパリの日の出の時刻となります。(写真左は Saint Michel 駅の出口で見たパリの日の出、右はギャルリー・ラファイエットで見た日の入り)パリの治安について、左岸の5区、6区、7区、右岸の1区と4区は特に問題ありません。市内の建物は昔から受け継がれているものも少なくありません。そのため、暖炉のままで、エアコンがついてないことが多いです。市内では、英語で生活することができますが、日常生活レベルの簡単なフランス語を事前に身につけることがお勧めです。

学校の休みの日には、友達と一緒にパリの色々な所に行きました。市内のカフェ、レストラン、美術館や博物館などを回り、どこに行っても歴史の香りが漂う建物ばかりでした。特に美味しい食べ物がいっぱいでした。

パリ以外には、例えばフランスリヴィエラのニースとモナコ、イギリスのロンドンなどにも行きました。

3. まとめ

今回の留学を通じて、ESSEC で学んだ知識と得られた友達以外に、最も大きな収穫として、自分の視野、地平線を広げられました (Broaden my horizons)。例えば、モネの絵と浮世絵との繋がり、フランスの食文化や、多民族国家のあり方が挙げられます。パリには世界諸国からの移民が同じ空間で暮らしています。色々な異なる民族が調和的な生活をしているため、異民族の文化、習慣、食物などをきっかけに、異民族間コミュニケーションや他民族への理解を深めることができました。世の中で人の生き様はこんなに多種多様であることを実感しました。そこで、『最強のふたり (Intouchables)』というフランス映画を思い出しました。映画のストーリーのような人種、民族、階級が全く異なる人たちがお互いに理解、信頼し合う関係に感銘を受けました。また、「他人は自分を映す鏡」のように、逆に今まで単一民族で育てられた自分を振り返って、これからは粹にとらわれず、たくさんの機会や可能性に挑むことができると確信しました。

私は充実した1学期を過ごしました。そこで、交換留学制度を利用してフランス留学を考える皆さんへ：ビジネスに関する知識、異文化への理解、そして ESSEC のネットワークなども必ず将来の人生をもっと面白くしてくれます！ぜひパリ生活を楽しんでみてください。最後に、このような貴重な機会をくださった先生や職員の方々のご支援に心より感謝申し上げます！

①ESSEC Business School について

2019年9月から4ヶ月ほど ESSEC Business School で交換留学へ行っていました。ESSEC はフランスの商業型グランゼコールの一つで、商業エリートの養成機構となっております。ESSEC はパリ市内から電車で 40 分ほどかかる「Cergy」という町にあります。周辺にはスーパーマーケット、薬局、レストランなどがあるため、日常生活には支障がありません。学校内には図書館、カフェテリア、ジムなどがあり設備が充実しています。自動販売機一杯 80 円で飲める美味しいコーヒーと 350 円で食べられるランチセットは学生達にとってとても魅力的だと感じられるものです。ジムでは毎日無料の授業（ボディワーク、ダンス、ヨガなど）が行われており、私は毎日のように通っていました。

留学中私は Luxury retail management、Global strategy and the business of luxury、Financial accounting の 3 つの授業を受講しました。ESSEC はラグジュアリービジネスに関して強みがある学校です。ラグジュアリーの授業の先生たちは有名ラグジュアリーブランドで Top management を務めた経験がある方で、有名なブランド (LVMH、ROLEX など) の歴史、発展、特徴など詳しく紹介していただき、先生と親交のある有名ブランドの CEO の方がいらっしゃる、授業をされることもありました。授業中はたくさんディスカッション、グループワークが行われ、実際に店舗へ行って調査することもありました。またフランス語の授業も履修可能でした。フランス語クラスを通して友達がたくさんでき、言語の勉強だけではなく、フランス文化などを直接体験出来たとても有意義な時間だと思います。

②日常生活について

私は学校の寮に住んでいました。学校まで歩いて 30 分ほどかかる場所にあります。寮の一階には集会室とジムがあり、ピアノなどのアミューズメント施設もありました。週末になると、友達とよくパリ市内やフランス国外のヨーロッパの国々へも遊びに行っていました。また、シャンゼリゼ通りの夜景、南フランスの海、スペインのフラメンコ、ベルギーのチョコレートなど、これらはきっと私の人生において一生忘れられない貴重な思い出になると思います。

③今後留学予定の方へ

ESSEC では各国から来た大変優秀な学生がたくさんいます。これら優秀な方と交流し、友達になることは大変嬉しかったです。またトップレベルの先生から指導を受けられ、よい教育資源を享受できて感謝しております。この場を借りて会計研究科の留学機会の提供に改めて感謝します。留学の時間を楽しんでいた一面もありますが、授業はすべて英語で行われ、授業中 20 ページのビジネスケースをその場で読ませてそのままディスカッションに入ることもありましたので、出発するまで英語の勉強を続けることをお勧めします。また、Cergy ではキャンパスを出ると英語で対応していただける方は殆どいませんでした。留学する前に、ある程度フランス語を勉強したほうがより楽しめると思います。私はこの滞在期間でフランス最大規模のストライキを体験しました。学校に通う電車が殆どなくなり、パリ行の電車も少なく、とても不便でした。パリではホームレス、スリなどが多いため、出かけるときに十分に気を付けないといけませんでした。交通の不便、街の危険などから改めて日本社会の良さを思い出しました。短い間でしたが、ヨーロッパ文化の刺激を受け、この経験はきっと私の人生の宝になると思います。

